

廣益俗說辨

附編

畜獸 禽鳥 龍魚
蟲介 草木
言語 雜類

13

954

18

廣益俗說辨附編卅六目錄

○雜類 畜獸

補五性セウよわめて馬毛ミンケ旋毛ツチとろぬ

補馬ウマの四白ヨッシロの尻

補猿サルをハミヤ既ヲる玉タマ尻

○雜類 禽鳥

補都鳥トトリ乃ノ尻

補頭白カシラシロさ鳥カスの尻

補鳥室トリイェゝ尻

○雜類 龍魚

伊勢 3
954
門 卷

門 卷

廣益俗說辨附編卅六

〇

補 鯨クニラ 鯢タイ 鱠フカ 鰓サケ 鰾マツメ 鰼ウナギ 乾海參イリコ 乃ノ 從ヨ

○ 雜類 蟲介

補 蛭ヒル 蛇ヘビ 足アシ 乃ノ 從ヨ

補 蛇ヘビ 乃ノ 從ヨ

補 蟹カニ 蛇ヘビ 乃ノ 從ヨ

補 蠶カイ 食カ 乃ノ 始ハジメ 乃ノ 從ヨ

○ 雜類 草木

補 燕子花ユニシ 乃ノ 從ヨ

補 蔓草ラウトウ 乃ノ 從ヨ

補 白梅ハクバイ 乃ノ 從ヨ

補 乃ノ 從ヨ

補 唐カラ 乃ノ 從ヨ

廣益俗說附編廿六

井澤長秀輯錄

○雜類 畜獸

^補五性あるせて馬毛旋毛をあるぬ

俗間馬をとりひらぬ。いづれ乃毛いけよあひ或いけ

ずといひぬのぞい旋毛あるい。まゝ人よ誰ありあ

ふものあり

今按ふは従つてれくあるゆき事なり月

るなりなり^{（書ノ名）}碧雲瑕^{（モ）}聞見後録並曰碧雲瑕

馬也^{（キウ）}莊憲太后臨朝以賜荊王王惡其旋毛

太后知^{（ミ）}之曰旋毛能害人耶吾不信留備上聞

為御馬第一獸經云旋毛在胸者名宜乘ハ用也。況や又まゝて彼ふさるべしや

補 馬乃四白乃從

俗間。るみ四白といふあり

今按るみ四白のといふはわづに政事撮要云鼻

白曰王鼻尖一脚白称白一脚二三足白称二明

三明四足白謂四明鼻並白則称五明とあり

考知べし異制庭訓

補 猿と既し

俗間。猿既し玉のあり

今按るみ小裨海云。晋趙固之馬病郭璞見之曰

使猕猴相馴之病可愈云。於是隨璞之言果馬

病愈矣。は從よりけりとの。ちりるも妄作

なり。俗間。ちりるも

○雜類 禽鳥

補 都鳥乃從

俗記云。都鳥ハ武藏國隅田河をぞへれ。業平

乃詠みよつて名高し

今按るみ。るやこ鳥ハ武藏國のふありと諸

國よりのハ雲抄よるやこ鳥ハとみて川をぞ

前國獻白鳥又云寶龜四年九月丁亥常陸國
獻白鳥日本後紀云延暦十三年五月乙未甲斐
國獻白鳥トリス云々考知べし

補鳥室トリスつた

俗説云鳥人の室イユといれべし云々わつとひふ
つとふわつとふ

今按ふ日本紀云仁徳天皇ニシトク云々終る今日本
流産殿シブトノより武内宿禰タケウチノスクミの子コ云々
鶴産屋ツルウヤめつたり。應神天皇オウジンのミコはく。朕子と
大長乃子オホナノコ同日ツギもふ産サレと。而て瑞ミツなり。天の

表ヲシテなり。其鳥トリ乃ナニ云々相易アイカてつまじとて。皇
子コ云々大鶴オホツルと名ナはまはつと。大長の子ミコと。本免
宿禰スクミと名ナらつとあり。異苑云任城魏肇之初有
霍飛スミトシテ入其手テニウケテ者テス以ホツ為シヨク封爵之祥シヨクとあり是亦い
祥シヨクなり。楚辭ソ云フクテタツフ鵬鳥賦フクテタツフと云々。さ
るれども人倫リ云キツケタ去ミゼンをキあはれと云々。禽
鳥チウいミルてヤ知ベクんや

○雜類 龍魚

補鯨シラ鯢タイ鱣フカ鰻ササ鰺ヤツマキ鰩イリコ乾海參イリコ乃コ後
俗同コヘ字ヨミ云々。音訓コヘをヨミあやまり。もろくナキにナキ

の成有と覺ゆりてあり。右の字多あり

今按る小鯨魚ケイギョはくらくと唱ふに訓ありと。

鯨魚ケイギョ訓いる。萬葉集マンヤシタ小くくくく壹岐風土記云

鯨伏在郡西昔日鮎鯨アサケ追鯨走來隱伏故云鯨

伏フシト俗云伊佐三才圖會云海翁クジラ典籍便覽云海

翁クジラ支羅シラとありていふ。和訓ありてくくく知

予思續博物志云鯨魚者大者千里小者數千丈ニニ雌曰鯢

○鯢タイ日本にあり異邦より常陸國誌云大明人

見云大明國見ざる所なり。舜水談綺より又

同延喜式より平魚と書と。豊後よりいひくは是ハ平魚

日記よりきのみけりくくく鯢とあり。まふ某云。新嘉坡より。ゆく
ものさういれ浦の標紙ありてくくくはくくく人。堺は堺浦
名産標

○鱣魚センギョとぬくと訓い非なり。後漢書註云鱣音善

似蛇長者不遇三尺黃地黑文これをめつてふん

ふろといわれ伊豆國熱海浦をて漢人魚イサは

はくふ海蛇といふの成多く釣くあり。毒あり

とて食ふと濱よりくく蛇に似く黃色は黒斑

あり。鱣魚ハ海蛇なるべし

○鯢魚とさけと訓い非なり。焦氏筆業云鯢

魚巴郷村側有溪多靈壽木水中有魚曰鯢

魚其頭似羊キョトノカビニタリヒツニホウニク豐肉少骨ミツクホクオホスグサシとあり。別物なり。

○鯁魚センキョと云ふものなり。割ユムりけり。後漢書云

鯁魚長二三丈と別物なり。

○乾海參ケカイセンと云ふものなり。割トナりけり。割ヨミりけり。典籍便

覧云乾海參ランニク音依里哥オンイリゴとあり。考ハるべし。

○雜類 蟲介

補 蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。

俗同家内イエノウチ蜘蛛クモと云ふものなり。婦女フメヨと云ふものなり。

今按イふものなり。は蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。

蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。

蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。

蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。

蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。

蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。蜘蛛クモと云ふものなり。

補 蛇ヘビと云ふものなり。蛇ヘビと云ふものなり。

俗同小云コトと云ふものなり。蛇ヘビと云ふものなり。蛇ヘビと云ふものなり。

今按イふものなり。百練抄ヒャクレンセウ云保安二年五月十四日放コ二品

親王白川堂前庭有足蛇出来為犬被喰殺クヒコロと

あり。有足蛇アルアシヘビと云ふものなり。蛇ヘビと云ふものなり。蛇ヘビと云ふものなり。

補蟹蛇をころと從

俗從云。じう山城國の少女とて人の蟹とてころと
ける蛇とてころとされてる。後よ故ありて蛇を
小女が居る家とゆふ。あやうりし。蟹をて蛇を
ころとてころとありとて

度會延經神事隨筆云。碕原山城國相樂郡み
わり。倭名類聚鈔蟹蟠加無と化と入蟹満ハタと
書と。いは下健伊那太比賣神社あり。此故よ好事
者。素盞烏尊八俣大蛇と斬るころとふ準へ
蟹の蛇を殺とて蛇作とるん

補蟹食乃始の從

俗從云。欽明天皇の御宇。天皇舊仲國霖夷大王の
女子ムスメ金女コメメといひ終母ケイボありとてころとふひのせて
たぐすふ。日本常陸國豊良藩よけく下乃漢人キヨコあり
いふとけいけいヒメバウシ娘病死し其靈化して蟹カイ中
から見日本にて蟹食乃始あり

今按るふ。は從ハ蜀方志代醉編披神記等載馬
頭娘トウニョウが事と。日本のころとるものなり
倭令書よめる。若くは養蟹はハ黃者オウシャ也
蟹經よりく。ふりふりありとてころとふとて
天皇命螺螄メノメ聚國内蟹續日本紀云。和銅七年

云烟盤又云分盤。又云烟盒。又云烟袋。又云烟。常陸國志云烟草近世出自海外諸蠻流布天下。烟草慶長四下。南京ニテハ烟ト云。大明人號煙草朝鮮人曰煙酒。書云。南京ニテハ烟ト云。海外諸蠻曰。他波古とあり。考へ

知一

補 白梅をひめりとい訓

一書云。ひめりとい書。白梅とあり。いさろといひ。よいあり。日本のひめりとい

今梅ふ。白梅とあり。いさろき。ひめりといひ。ひめりといひ。齊民要術云。作白梅法。梅

子酸核初成時摘取夜以鹽汁漬之晝則日曝と。是むめりといひ。歴代詩家載邊華泉詩云。青柳白梅俱有眼と。是むめりといひ。賦セ

補 梅をひめりとい後

あり書生云。むめりといふと。梅ありといふて。性詩。賦たり

今梅ふ。梅は日本のいめりといふ。いさろは。此なり。舜水朱氏談。唐山は梅ありといひ。文選沈休文が發定山詩云。山櫻發欲然。

其注云山櫻果木名花朱色如火欲然也。其の
 見は木瓜の花の如くなり。日本の
 様とハ別なり。鎮座傳記鎮座本縁
 類聚神祇本源云。朝熊神社六座櫻大刀神二
 座。靈花木座也。大八洲櫻樹始天降焉。以
 為花開姫命也。一座大山祇神雙座也。是日
 本様の如くなり。とて我朝とハ様と名を
 あり。牡丹を花といふ。こ
 邵氏聞見後録云。洛中花多
 種而独牡丹。曰花は是なり
 考あるべし
 田家採可賞也。とわれハ一事院
 乃ころまハ保されり。とるなり

補 唐崎一松の松

一書云。近江國唐崎の一ツ松ハ古より一本なり。人
 たりある人の發句より。さびりてうでかゝる
 一ツ松とわり

今按ふ。一書云。近江琵琶湖唐崎。日本後紀。一
 株あり。松の葉一翳乃故なり。この故ハ一ツ松と
 なく。本草にもねハ二針三針み針の葉ありと
 といひて。一針をのき。ゆり。奇なり。日本書紀
 唐崎松記云。天智天
 皇御宇に。裁ふあり。天武九年の冬。風ありて。

廣益俗說辨附編廿六終

松倒ミツタラよりシニセウナラヨリ新庄車シニセウナラヨリと云ふ人ありて松と
う名にぐじ。其ころの人よりふ松の皮より
とせしゆべりかゝされりねよりふ松の皮より
かりきばと云ふ。ゆゑ考へて

廣益俗說辨附編廿六終

廣益俗說辨附編廿七目錄

○雜類 言語

補 倒語サカコト乃コト從

○雜類

補 日本ニッポン不フ產出サンシツ千異センイ邦書ホウノシヨモク者モノ從

○雜類

補 同名ドウメイ異人イジン乃コト從

○雜類

補 異僻ヘキノセイメイ姓名セイメイ從

○雜類

廣益俗說辨附編廿七

補 同歌別作者乃後

補 或問

補 書簡

○雜類

日本所產出干異邦書者說

○雜類

日本所產出干異邦書者說

○雜類

廣益俗說辨附編廿七

廣益俗說辨附編廿七

井澤長秀輯錄

○雜類 言語

補 倒語乃後

俗問ぬいふれよさうあゝいふ事なり

今按ふ。けろろろろ小用さる事なり日本紀云

神日本磐余彦天皇草創天業之日大伴氏

遠祖道臣命師来日部奉承密策能以調歌

倒語とあり。是其出處也

○雜類

補 日本所產出干異邦書者說

俗間。日本に産するもの。のうにものありと云
今あつるふ。日本に産するもの。是邦の書ふもの
を抄出してたに記と。次牙に拘ど。探索する任
とるもの

衣服 杜子美詩集云。瑞錦送麒麟。注日本麒麟錦

○義楚六帖云。大倭國貢神錦。龍文風彩。殆非人

工。○山海經云。東海有冰蚕。其蠶五色。織為文錦

京東洞院。二条よをて。倭錦と織む色の錦と稱す。○李太

白詩集云。身著日本裘。昂藏出風塵。注云。裘朝
卿所贈。日本布為之。朝ハ。晁ハ。カク。ハ。阿部仲磨なり

扇 皇朝類苑云。日本扇。熙寧末。余見日本扇

漆柄。以鷄青紙如餅。撲為旋風扇。淡粉畫平遠

山水。薄傳以五彩。近岸為寒葦。衰蓼。鷗鷺。汀

立景物。如八九月間。艤小舟。漁人披蓑。釣其上。天

末有微雲。飛鳥之狀。意思深遠。筆勢精妙。中

國畫圖者。或不能也。索價絕高。余時苦貧。無

以置之。每以為恨。再訪都市。不復有矣。○画

繼云。倭扇。以松板兩指許。砌疊。亦如摺疊扇者

其柄。以銅壓錢環。子黃絲。絛甚精妙。板上罨
画。山川人物。松竹花草。亦可喜。○圖画見聞志

云高麗人每至中國或用摺疊扇其扇用鴉青紙為之上畫本國豪貴雜以婦人鞍馬蓮荷花木水禽之類以銀泥為雲氣月色之狀極可愛謂之倭扇本出於倭國也○癸辛雜識云倭扇用倭紙為之以彫木為骨作金銀花草為飾剪刀洞天清錄云倭製摺疊剪刀古所未有有則寶之後世必有好尚之者

琥珀碼碯 舊唐書云永徽五年十二月癸巳倭國獻琥珀碼碯琥珀大如斛碼碯大如五斛器日本紀云

朱鳥元年春正月撰津國人百新興獻白馬瑞

青玉

藝文類聚云青玉出倭國

神宮雜事記云長元七年八月廿八日太神宮御前松

樹松子中有碧玉一九

如意寶珠

隋書云倭國有阿蘇山有如意寶珠其色青

大如雞卵夜則有光魚眼睛也

水晶

本草綱目云倭國多水晶第一○居家必

用云水晶倭者上品○畱青日記云日本有青水晶

紅水晶

出雲風土記云意宇郡長江山出水精

松皮紙

弁州四部稿選云日本國出松皮紙○唐書

云建中元年日本國使者真人興能獻方物興能

善書其紙似繭而澤人莫識

松 癸辛雜識云倭人所居悉以其所產新羅松

為之即今之羅木也色白而香仰塵地板皆是也

杉 本草綱目云杉木出倭國者謂之倭木○合

壁事類云杉出倭國者尤佳

檜 義楚六帖云日本國都城南五百餘里有

金峰山有松檜名花軟草

栗 毛詩陸疏廣要云倭國栗大如雞子亦短

金桃 述異記云日本國有金桃其實重一斤

生菜 魏志云倭國地溫和冬夏食生菜

鹹草 本草云鹹草按桑東有女國產鹹草而氣

香味鹹彼人食之○論衡云周時天下太平倭人貢

鹹草○文獻通考云女國在扶桑東千里食鹹

草 爾雅云女國之鹹草也○女國之鹹草也

容乃之○女國之鹹草也○女國之鹹草也

延延年中○女國之鹹草也○女國之鹹草也

七曰○女國之鹹草也○女國之鹹草也

常以食之○女國之鹹草也○女國之鹹草也

見○女國之鹹草也○女國之鹹草也

菊 菊譜云新羅一名玉梅一名倭菊

桃枝竹 太平御覽云倭國有桃枝竹

物山水穀色甚重多用金碧殊勝他方異域而

有^{アリ}画^エ不^ス知^{シラ}姓^{セイ}名^{メイ}傳^{デン}寫^ツ其^ミ國^{クニ}風^フ物^{モノ}山^{ヤマ}水^{スイ}小^コ景^{ケイ}設^{セツ}名^{メイ}

甚重多用金碧○画史云馮永功字世勳有目

秦子 タマキニ 太平廣記云太中中日本國王子來朝王 ライテウス

里^{リニ}有^リ集^{アミ}真^ミ嶋^{シラ}嶋^ウ上^ニ有^{アリ}凝^キ霞^カ臺^{ダイ}
 霞^ニ臺^一上^ニ有^{アリ}手^テ

溫フタタニナツヒヤサムニ復イフ冷ヒヤライタシキヨク故謂之冷ニ暖玉ニ

韻府群玉杜陽雜編所載右同
○手諱池ハ肥後國天草郡志波

小わり。集真鳴の天草なり。本邦くわ地方言よ。志岐の基名と云は
くにあり。あつる派を世に代りての事よ。も後池の。そね佐々園ちりと
記より。やまもりといふ。そし石あり。佐々園も。たまふ同
一。佐々園記云海部郡小由黒乃溪あり。而溪よひ。ゆき基名の
あり。また溪よひ。ゆき基名のうちあり。而黒のさうひ。縄とひくるぐ
とあり。○又伊勢ふと。志摩ふ。おぬよりけて。而黒の名あり。伊勢力
たす。志摩いともあつて。ゆき基云。いせのたす。ゆき基云。基名
あつるのうきりゆる溪とて。黒いひともゆくらど。ゆき名のさうゆき

黒のうぎりなちちり。あけいどがまやたしとの曇るをうへてふ白きぜよ
うこれとぬき。是も贅ひふやうといふも。そのついでに化してを蒙
るる。

薰爐コヤセニ香篆クニロ云薰爐書齋中薰衣炙手對客常カクニツ子ニ
談之具如倭人所製漏空罩蓋漆鼓クナリコトクワ可稱賞トコロセイトロクタクタニカイ
レツコノヘニニヨクス

龍慈簪
五雜俎云吳越孫妃以物施龍興寺形如

朽木筋寺僧不知宝此有胡人曰此日本龍慈簪

也。以萬二千緡買之。○癸辛雜識云：倭人所居，墜以

香入其室則芬郁異常

よ。石公といふものゝ如くして。香紙もてとやうくくし
わり。これぞ。祇代は香わりくくしとははけ及ど

刀劔
登檀必究云倭刀有高下技有工拙倭之

富者不怯重價而制之廣延高師李之其貧者

所操不_レ過下等刀耳上等上庫刀山城國盛時盡

日本各嶋名匠封鎖庫中不限歲月竭其工

拙謂之上庫刀其間號寧久者更加世代祖傳以

此為上次等備前刀以有血漕為巧力。○丹鉛總

録次陽公日本刀歌
事ナカキ
ユヘニ畧ス

壓尺 遵生八牋云見倭人鏤金銀壓尺古所未

有尺狀如常上以金鏤雙桃銀葉為鈕面以金

銀鏤花皆聯環細嵌工緻動色更有一竅透開

内藏抽斗中^ニ有^一刀錐鋸^ニ刀指銼^{ケヌキ}刮^ハ菌消^ニ息^三究

耳剪力收則一條挿用成剪此製何起豈人心
思可到謂之八面埋伏盡於斗中收藏非倭其
孰能之余以此式令潘倣造亦妙潘能得其
真傳耳

工 杜陽雜編學圃憲蕪並云唐穆宗時飛龍

衛士韓志和本和國人也善彫木作鸞鶴鷄之狀

飲啄勃靜與真無異是日卒の菰強エりてぐとより

五穀 宋史云土宜五穀而少麥又出千大明

茶 續文獻通考云日本俗喜啜茶道傍有店

邀人啜茶如漢人入酒館也

硫黃 本草綱目云倭硫黃佳續日本紀云和銅六年五月相模信濃陸奥出硫黃

追考海東諸國記云日本下野國有火井產硫黃

鷓鴣 漢隱叢話云倭國水多陸少以小環掛鷓鴣

項令入水捕魚日得百餘頭日本紀云雄略天皇御宇使鷓鴣浸水捕魚○是日卒

とて精とつもの

此餘さゝめて多うとて追て探索して尾に附じ

○雜類 同名異人説

十五人麻呂 ○一柿本人麻呂 石見國の者なり。文武天皇清

後三位あり。神龜元年三月十八日於石見國率以四十二人

室年中の人也。○三阿倍小殿朝臣人麻呂 後五位下。神護景雲

○四石川人麻呂 延心少弼。右同 ○五賀茂人麻呂 東市心。延

負外甘楠。宝龜八年 ○六陽侯忌寸人麻呂 東市心。延

同。人後裔宮院。同紀 紀 ○七伊豫志紀人麻呂 比人。日本後紀 ○八文部

人麻呂 比人。日本後紀 ○九田口人丸 田口光人子

皇比人。名見安式 ○十山田人麻呂 天皇天皇比 ○十一柿

本入麻呂 玉傳抄云。平機天皇清寧中。仲系清寧中。つひ奇人。姓

玉傳抄云。平機天皇清寧中。仲系清寧中。つひ奇人。姓 ○十二玉人麻呂 隆興外後。下

年中。人 ○十三山田史生上道人麻呂 同書 ○十四

葉栗人麻呂 一書云。葉栗人麻呂。尾張國 ○十五上

總系清女子人丸 鎌倉志

六足人 ○一石川朝長足人 ○二佐伯朝長足人 ○三

巨曾部朝長足人 ○四曾根連足人 ○五百濟朝

長足人 ○六栗田朝長足人 上三人ハ天平

八安麻呂 ○一犬神朝長安麻呂 ○二安部朝長安麻

呂 ○三高橋朝長安麻呂 ○四巨勢朝長安麻

呂 ○五上毛野朝長安麻呂 ○六小沼田朝長安

麻呂 ○七大伴朝長安麻呂 ○八平郡朝長安麻呂

十一人足 ○高向朝長人足 ○二佐伯朝長人足 ○

三縣田首人足 ○四河内忌寸人足 ○五中臣

人足 ○六坂門人足 ○七堀屋人足 ○八縣太

養宿祢人足○九山田連人足○十丈直人足

○十一之國人足

二八鹿○一獲我鞍作入麻仲大兄鎌足○二和氣入

麻桓武天皇
時人

二腹赤娘香が
みかり○二粟原腹赤中世乃
騷人あり

二淨人○一弓削淨人○二道削淨人

二千里○一丈伴宿祢千里○二大江朝長千里

二仲滿○一安倍宿祢仲滿あまのふりやけとんげんといふ
人たりもろくして晁々と名に

二藤原朝長仲滿

二田村麻呂○一坂上田村麻呂○二河内連田村麻呂正
六

佐上三代
實録

三黑人○一民黑人○二高市黑人○三内藏忌守黑人

二廣足○一韓國連廣足○二波多朝長廣足共々文武の
時乃人

二相如アサ
アサ○一高岳相如○二藤原相如

七馬養○一藤原朝長馬養○二粟田朝長馬養○

三小野朝長馬養○四為奈真人馬養○五伴余

連馬養○六天忌寸馬養○七船本直馬養

四毛人○一小野朝長毛人○二阿倍朝長毛人○三

高橋朝長毛人○四佐伯宿祢毛人

五牛養○一石川牛養○二紀朝長牛養○三丈伴

宿祢牛養○四多治比真人牛養○五調連牛養

四百枝ミツ○一河邊百枝○二田邊百枝○三三津百

枝○四橘百枝

十虫麻呂○一佐伯宿祢虫麻呂○二引田朝長虫麻

呂○三路真人虫麻呂○四置始連虫麻呂○五

刑部虫麻呂○六石上虫麻呂○七川原虫麻呂

○八下毛野虫麻呂○九箭集虫麻呂○十占

部虫麻呂

九東人○一大野東人

姓氏錄云大野朝臣國豐城入彦命四世孫大荒田別命之後也大野東人討藤原廣嗣事詳見于續日本紀○二御手代東人御手代東人見于日本書紀○三河名東

貴御中主命十世孫天諸神命之後也○大野東人とい別より書二を混して一人とするゆへにこれを毎ととす○三河名東

人○四大伴東人○五橘原東人○六置始直東人

○七中於東人○八道守長東人○九佐伯宿祢

東人

四古麻呂○一紀古麻呂○二調古麻呂○三伊伎

古麻呂○四下毛野朝長古麻呂續日本紀

二首名ラフナ○一道君首名ラフナ○二安倍首名一書混二人為一人大詭

三好古○一橘好古大宰權帥○二小野好古大宰大貳純友追討使○

三菅原好古

二時雨○一和氣時雨○二藤原時雨

二義綱

○一源義綱

賀茂次郎美濃守。賴義次男。

○二源義綱

依余五郎

四師尚

○一藤原師尚

但馬守。

○二源師尚

刑部左輔。後五位下。字多。

天皇

○三高階師尚

右中將。後四位上。在原業平。密通。齊宮格。子。所生子也。

○四中原

師尚

不宰太。五位下。

二興乾

○一藤原興乾

左宰。大式。

○二源興乾

攝津守。後四位下。

三賴信

○一源賴信

河內守。滿仲子。

○二藤原賴信

○三

源賴信

橫山左衛門。

二賴政

○一藤原賴政

右近將監。康和比人。

○二源賴政

後三位。兵庫改。

二賴家

○一源賴家

筑前守。後四位下。賴光次男。

○二源賴家

將軍。朝嫡男。

二清輔

○一藤原清輔

丹人。

○二紀清輔

帶刀。先生。

二唱

○一源唱

京兆。

○二源唱

渡邊氏。賴政臣。

三義盛

○一源義盛

新宮十郎。後備前守。行家。

○二平義盛

和田。

小太

○三義盛

伊勢三郎。義經家人。

二親能

○一中原親能

丹院次官。系國云。賴朝賜源姓。

○二源親能

內膳亮正五位下。

五為賴

○一藤原為賴

越前按察使。五位下。

○二源為賴

丹波。少。

○三丹波為賴

典業。

○四藤原為賴

后宮亮。後五位下。丹人。

五

源為賴

淡原八郎。

二時賴

○一菅原時賴

出雲守。後四位下。

○二平時賴

北條相模守。西明寺。

二行綱

○一源行綱

多田藏人。

○二源行綱

高橋五郎。左衛門。

五忠信

○一櫻嶋忠信

本朝

○二宇治忠信

中世所

○三坊門宰相忠信

○四藤原忠信

都芳門院藏人

○五

佐藤忠信

四郎共衛義経家人

二蓮生房

○一蓮生房

熊谷次郎直實入道一書三戀西トモリ

○二蓮生房

宇都

宮弥三郎入道内光
大行狀翼賛

二竹取翁

○一竹取翁

萬葉集

○二竹取翁

うろたのまづく
かやいふか

中々人たり
竹取物語

三赫夜姫

○一迦具夜比賣

垂仁天皇妃古事記

○二ひく屋姫

大鏡云小砂又右
大長原交賢女

○三赫夜姫

竹取物語又
うろたの化女

歷世同名異人のものぞいづれに家に載る

所へわきまなく人口めあつものなり。是
も又俗説を糸どる乃一端なり

○雜類

異僻姓名説

七楠腫

日本

○八楠腫

越後風土記

○額田部連甥

モノハ

○朴井連椎子

○吉備三臣垂

○穂積臣咋

カワラキ

○福草

○難波癡龜

○鹽屋鯛魚

イヘツ

○倉臣小尿

○能登臣馬身龍

○廬井造鯨

イホイノミナ

○舍人連糠虫

○都努臣牛

○完人臣馬

ツチ

○部連免

○間人連鹽蓋

○草部連醜經

各日

○安倍朝臣男糞

日本後記

○ト部乙屎麻呂

三代實録

○和氣岐波豆ワケノキハヅ○鷹取タカトリ○就鷹取ワシトリ○真鷹マタカ三人兄

○紀本キノキ武内宿タケノチ○紀名虎キノナトラ○紀名龍キノナメツ二人兄兄弟ナリ○紀大父キノオヤ

○紀淑間キノヨミマ山城ヤマシロ○春風ハルカゼ○月影ツキカゲ○松影マツカゲ三人兄兄弟ナリ○藤

○多治比真人嶋タヂヒヒノミツハトシマ○根咋臣ネヅミ○真咋臣マヅミ二人兄兄弟ナリ○山

邊赤人ベノアカヒト○民黑人タミノクロヒト○藤原山人ヤマトノキニメナリ○山戸公ヤマドノキミ女成

大學ミナモトノニメ○源似忠ミナモトノニクニメ○源三國町ミナモトノミクニメ○大江千里シホエノチサト○藤原

萬里マンリ○藤原千葉ノチバ○三津百枝ミツノモエ○五百枝イハジ○五

百城フキ○藤原五岳ノイフシカ○平五月ノサツキ○橘千杉タチハナノチスギ○藤原

八鈎ヤツリ○多治比土作タヂヒノツチツクリ各大系大○阿古久曾アコクソウ紀貫之初名

窈クツ古今集古ノ名○藤ナヒキ詞花集遊女○佛ホトケ盛衰記白拍子○袴垂ハカマタレ盜賊名

書ハ保補ウツ○立烏帽子タチエ虎国異制庭訓云於藤原山立烏帽子虎國異制庭訓云於藤原山立烏帽子

云嘉義年中平正盛郎等山田云嘉義年中平正盛郎等山田庄司行末棚坂鈴麻山立烏帽子庄司行末棚坂鈴麻山立烏帽子

歷世僻名乃人レキセイヤミナノヒトあまそくいづへぐさ。ナグーと愛

いづへぐさ

○雜類 同款別作者乃後

わさつ山かけさへんゆら山乃井のあさく人と

やふふのうはけり萬葉集よい隆興来女ふふあり大和和泉よいあるるのしりし隆興来女ふふとて

あり

今抄々々萬葉集乃後を用へ

からん山いささくりてさくゆひひさ(わふふ身ハ

むやゝわろし

は奇古今集より大伴安をよめることあり
○古今著同集より教位敷敷をよめることあり

今梅のふち今集の従ふことあり

□ ちのけのれれものつみせををいふみけり乃

く紙といは

は奇は拾遺集より物部かよめることあり
○十訓は著同集より教位敷敷をよめることあり

今梅のふち拾遺集と見べし。常家今集より

は奇のつてることあり

□ ちのけのれれものつみせををいふみけり乃

は奇のつてることあり

は奇は拾遺集より物部かよめることあり
○十訓は著同集より教位敷敷をよめることあり

今梅のふち拾遺集と見べし。常家今集より

は奇のつてることあり

今梅のふち拾遺集と見べし。常家今集より

は奇のつてることあり

今梅のふち拾遺集と見べし。常家今集より

□ ちのけのれれものつみせををいふみけり乃

は奇のつてることあり

は奇は拾遺集より物部かよめることあり
○十訓は著同集より教位敷敷をよめることあり

今梅のふち拾遺集と見べし。常家今集より

は奇のつてることあり

同秋のふち拾遺集と見べし。常家今集より

金一

○或問

○ある人來て問く。是下の記やうらう。程
伊川乃一髭髮相似なれば。まづる所。別人也。
何る語を引て。像を設くる所。非ず。まづれども。
程伊川乃從へ。まづこれ事なり。日本にても。
神社あれば。神像なく。うまい。理なりと。
よものあり。つぎ。答云く。前にも記せし。こ
ゝ。上古に。明鏡をり。神明の德に表なり。
本像をけ。つる。習合。まづ。こゝ。故に。
無體と從て。純一。よとれば。有像と從て。混雜

をん。これを比。とる。蟬。の。蟲。乃。物。を。あ。く。頭
ふ。と。人。あり。て。其。負。る。物。を。さ。れ。ば。又。あ
から。あ。で。ま。づ。づ。い。ゆ。い。え。未。書。紙。よ。ひ
。と。情。に。理。を。さ。い。ひ。つ。と。精。一。あ。づ。る。ゆ
かり。若。それ。つ。と。あ。後。づ。ね。と。と。ん。い。凝。結。せ
ふ。あ。う。釋。然。と。て。闇。を。出。く。明。は。向。へ。る。期
ある。づ。其。何。よ。う。り。て。僕。が。言。の。意。あ。づ。る
を。け。る。ま。づ。べ。ー。○同。云。く。頃。日。俗。從。教。資。并。續
編。と。い。書。お。これ。る。其。從。つ。ぎ。答。云。く
設。説。り。も。佳。就。中。奇。宮。の。系。未。書。乃。未

癸^{ミツ}ち^ツり。○同云。ある神職^{シヨウ}傳^{カダ}り。神道^{シントウ}よひ
 とぶの神と稱^{シヤウ}とるなり。男女^{ナンニョ}乃縁結^{エンケツ}成^{ナツ}つるなり
 まふ。神書^{シヨウ}ふるなり。つゝし。若^{ニホ}そ
 び後^ゴ。舊^ク事紀。古事記。日本紀。古語拾遺^{コゴシユイ}。倭^{ヤマト}姫^メ
 世紀。鎮座^{チンサ}本紀。傳記。次第記。本縁^{ホンエン}。宝基^{ホウキ}本紀。
 神祇^{コウ}本源^ゴ。神名秘書^{シメヒ}。え々集^{シツ}多^タよ。んてん。と。
 後^ゴ人^ニ擬作^{キサク}乃書^カみせり。多^タし書^カよ。なり。と。
 巫僧^{ブソウ}乃加筆^{カヒツ}多^タれ。取^{トル}て。なり。抄^{スツ}る。と。
 あり。具眼^{グガン}の者^{モノ}よ。わ^バ。て。ハ。弁明^{ベンメイ}。一^{ガタ}。あり。
 み。い。に。う。は。無^ム知^チ妄作^{マウサク}なり。と。ん。て。卿談^{ケイダン}。り。

月老神ツラウシのゆと記キし。續幽怪録シツウケイロクの定昏店テウコンテンの
 事と記キし。むづい。無禮不義ブルイフギ乃るゆとも。づとま
 ざりしや。筑波ツクバ乃秋場アキバ。常陸ヒタチ乃ト。筑摩ツクマ乃ハ
 濃ノ雜魚ザコ寢ネ道祖神ドウソジンの淫イン形ギョウをも。しりわんと。信
 じりしと。今イマれ人ヒトい。しへ神カミ愛アイちるもと。
 多タびビいイてテぬヌも。故下コカジユツ溺ニョクるんとそわわ。あそんば
 ニ三サイ歳サイの更チゴい。わさひるれども。七八シハ歳サイにも及およべい。
 うえいそ。わうくそ。うぐぐぐ。計ハカさう近年キンネンい。文
 明メイちりて九ク字ジ獲ゴ身ニは。三サン社シャ院エン宣セン名ナの。そ下
 みつたれさうぬ。用ヨウひざりもの多ホし。あ尚カニヤウと

へきられ。○同云。是下の撰ぶところ乃廣益俗
説并け書のりて。やれり。答云。いまだ
さげろものなり。他日強編を記して。世にさる
べし。近きころ。ある人書紙贈りて。俗説并け
事れり。そのなり。其返簡を終り。附と

○復松下長敬雅丈書

僕昔髫髻。從父遊于武江時。訪垂加翁。門人姑得
聆神道之所以為神道。然不能探其機要。究其精微。
既而奉君命。歸于本國。自謂有志而不成者也。因思
土佐州。垂加翁之舊地。神道發明。必不乏其人。今

辱領鴻幅。披函拜誦。即知土佐州高知府中有
松下長敬雅丈。而其所說神道者。果愜夙望。恭惟
天地開闢之始。一神化生於大虛。後世尊奉。稱之
國常立尊亦號。天御中至尊。總主陰陽五行萬
物萬化。上下大小神祇皆此尊之所化。迺天地一
氣之靈神也。稱國狹槌尊。豐斟渟尊。是國常
立之分神也。泥土黃。泥土黃。大戸道。大古
邊。面足。惶根諸尊亦分。國常立。國狹槌
豐斟渟。為陰陽之六神神明。一而二。二而五。五而萬
萬。而一無邊之體。無窮之用。其德不盛哉。伊弉諾

尊伊特並尊備造化與氣化之靈德始生國土山海草木次生天照太神太神以瓊々杵尊任豐葦原中國授三種神財曰是吾子孫可王之地也宜爾就而治焉宝祚之隆當與天壤無窮者也又太神手持宝鏡曰視此宝鏡當猶視吾可與同床共殿以為齋鏡爾來神以傳神皇以傳皇神皇正統永聯綿焉是所以神道有祖也然雖厩戶皇子撰舊事紀太安萬侶著古事記而未能盡神道蘊奧藤森神惜二書不全蒐輯日本紀其所收載有專言天有專語人以人談天以天語人天人唯一之

理悉備于斯編可謂萬世之達書也然藤森神之後得其傳者幾希矣越佛氏等私飾智巧謾設剽竊終混神佛以為同體神道湮晦一至於此適逮一千載垂加翁倔起貴壤繼藤森神道統排存他鬼尊信我神立教之純粹設說之親切雖兼良親房之博洽不能出於其右潛心神道者誰不崇尚哉蓋此談可與可言者道難與未可言者道節之於雅丈雖曰未有半面之識其所以同道同志者有感而動豈為不可言之人耶故不顧贅及亦何憚喋々今及覆點檢來教足下似未親受業于垂加

翁者然觀所以闢邪提正論辨取舍之說自非垂
加翁之餘澤何以至於此將默識之耶抑淑人耶可
畏之甚也夫恨我洋閭隔無緣面論徒耿耿望耳且
所刊俗說辨荅蒙過譽是嚮為童蒙輯之以附諸書
肆不虞涉清鑑最不堪愧又勞念千驢年及
豚兒極切銘感臨報匆匆不暇擇言幸炤亮之維時
秋拙風霜方寒伏祈為道保攝自玉不悉

九月二十一日

井澤十郎左衛門長秀

廣益俗說辨附編卅七 大尾

廣益俗說辨附編引用書目

- | | | |
|--------|--------|--------------------------|
| 神祇譜天圖 | 濱成天書 | 出雲小緣起 |
| 樋河上天淵記 | 諸祭記 | 野府記 <small>一名小右記</small> |
| 皇代曆 | 二中曆 | 玉露叢 |
| 本朝改元考 | 舜水談綺 | 新撰朗詠集 |
| 仙巢稿 | 覆齋總集 | 後拾遺集 |
| 續拾遺集 | 俊成家集 | 伊勢家集 |
| 吳竹集 | 和泉式部日記 | 八雲一言抄 |
| 躬恒祕藏抄 | 後賴莫傳抄 | 尾張風土記 |
| 伊賀風土記 | 讚岐大日記 | 隆興名寄 |

天草夏跡

唐崎松記

沈墮瀑記

十六夜日記

熊野紀行

庭訓往來古抄

異制庭訓往來

明衡往來

尺素往來

保曆間記

梅松論

櫻雲記

室町日記

足利治亂記

江北佐々木記

新撰信長記

信長家譜

秀吉家譜

豐臣實錄

淺井三代記

大和軍記

和州軍傳

本朝武林傳

香記

菊池武重母慈春尼寄進狀

圓光大師行狀翼贊

奇異雜談

怪談全書

怪異辨斷

增補通商考

苔衣并松帆

水砂鳥

女中道指南

齒黑圖式

眉圖式

魏書

卿談

續幽性錄

劉氏鴻書

廣川書跋

庚穆之相州記

東觀記

漂粟手牘

昨夢錄

夷俗考

兩朝平壤錄

粧臺記

戒菴漫筆

東京夢華錄

國朝會要

泉志

不求人全書

碧雲瑕

稗海

續稗史

楊大真外傳

政事撮要

三才圖會

溪蠻叢笑

格物志

藝文類聚

獸經

蠶經

聞見後錄

毛詩陸疏廣要

漳州府志

齊民要術

蜀方志

西京叢話

洞天清錄

留青雜記

太平御覽

菊譜

學圃憲蘓

演隱叢話

花鏡

合璧事類

典籍便覽

可談

皇朝類苑

圖畫見聞志

圖繪寶鑑

宣和畫譜

畫史

畫繼

文獻通考

續文獻通考

涪笑偶言

宋洪遵譜雙

大明會典

駒陰冗記

委巷叢談

元氏掖庭記

詭名錄

事物異名

龍飛紀畧

臨海記

蓬窻日錄

樂善錄

願休集

朱子文集

蓬溪類說

芝峰類說

杜子美詩集

王梅溪文集

詩學大成

萬首唐絕句

歷代詩家

行厨集

日用雜字

本草綱目

本草紀原

奚囊便方

右百四十部 蓋總計三百六十五部○二百二十五部書目與前編後編遺編所載相同故省略之出于此

書目舉不出彼三編者而已

前編二十一卷○後編五卷○遺編五卷○附編七卷
○都合為三十八卷四百七十九條 ○引證書八百
七十九部

右各應柳枝軒淡木方道之求書之

肥後隈本 井澤十郎左衛門長秀



